

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和4年度）

法人名	社会福祉法人 壺中会	代表者	河田 孝美	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り、ご利用者様のご要望に応じ、ご利用時間の調整を致します。</li> <li>・全職員が利用者一人一人の特性を把握し個人の思いや希望を叶えるよう努力します。</li> <li>・地域の中で安心して快適な在宅生活できるよう地域の力を繋ぎ結び付け地域の人と共に支えます。</li> </ul>
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所 長春苑	管理者	藪本 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	人	人	1 人	人	6 人	人	9 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	細かい部分でも気づいた事を発信し建設的な話し合いができるようにする。	職員全員で評価を行う事ができた。状態の変化に気づき情報共有は概ねできていたが不足する事もあった。	評価しにくい部分もあるが全員で取り組んでいると思う。	ユニット目標達成ができる様に全員が意識して取り組む。個々のスキルアップも図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策を含め、環境整備を強化する。施設の外周にも気配りをする。	玄関の掃除、季節に応じた飾り、作品などに配慮し明るい雰囲気になった。外周の環境整備が行き届かなかった。	特養の玄関は分かるが小規模はまだ分かりにくい。全体的に雰囲気良く開放感があり駐車場も停めやすい。	事業所の整理整頓に力を入れ外周の環境整備も全員で取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	送迎や訪問時は地域の方にも積極的に挨拶をして行く。	送迎、訪問時はマンションの住人にお会いした時は必ず挨拶はできていた。地域の方や近隣の方にお会い知る機会があまりなかった。	認知症カフェが開催される話があった時相談できれば良いなどの声があった。サービスを使うまでではないがボランティアで参加（活躍）したい人もいます。	コロナの関係もあるが「あっぱれ桃太郎体操」の再開により地域の方と交流できる様に小規模の利用者様も可能なら参加して頂く。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	外部への積極的な働きかけが難しいが外部の方と関われる時は事業のパンフレットを渡したり河田病院のHPの案内もして行く。	外部からの問い合わせや交流会等あった時はパンフレットを渡したり説明をしている。	交流会等で事業所をしっかりとアピールする事により相談ができる場所として認識ができて良いと思う。	コロナ感染予防の為、地域活動も参加可能か不透明だが事業所内のレクリエーションでも楽しんで頂くように取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営会議の資料の回覧を通し気になった事等ミーティングで話し合ってみる。	資料の回覧はできている。必要事項は申し送りを行っている。	会議の中で事例検討があった方が良い。	引き続き資料の回覧や報告を行う。事例検討もできるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所の防災訓練には必ず参加する。機会があれば地域の防災訓練に参加する。	事業所の防災訓練は参加できている。終了後意見交換も出来た。コロナ感染予防の為、地域の防災訓練の参加はできていない。	石井学区は独居生活の人が多。実際、災害が起こった時にどうしたら良いか、地域と施設をどう繋げるか。河田病院の場所がわかりやす為、地域の人は心強いと思っています。	引き続き事業所内の防災訓練には必ず参加する。機会があれば地域の防災訓練に参加する。